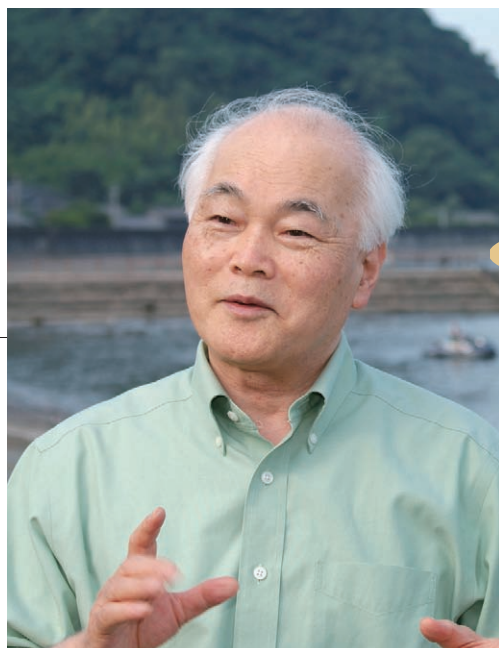




私の好きな場所

My favorite Place



西郷南洲顕彰館館長

高柳 毅さん

昭和15年長崎市生まれ。上智大学英文科卒業。元南日本新聞論説・編集委員。著書に「西郷隆盛伝－終わりなき命」、共同執筆「西郷隆盛七つの謎」(いずれも新人物往来社刊)。西郷隆盛顕彰会の常務理事。平成16年4月から西郷南洲顕彰館館長。

「敬天愛人」の心を感じる青春の場所

高校時代の思い出の地 磯

磯の浜辺から見える、雄大な桜島をバックにした錦江湾。特に11月頃、冷え込む夕暮れ時、刻々と変化する色合いの美しさに心がひかれます。それは美しいというよりも、天地創造の靈妙さや荘厳ささえ感じられるほどです。特に寺山からの夕暮れ時の展望は絶妙ですね。私にとって磯の浜辺と錦江湾は、高校時代のボート部の活動の場であり、青春そのものです。今でも通るたびに、若き日の思い出が鮮やかによみがえります。

また、この一帯は薩摩の歴史が凝縮された形で残っており、多賀山城跡から祇園之洲砲台跡、旧玉里島津邸、琉球人松、磯天神、尚古集成館・仙巖園、西郷隆盛蘇生の家、島津歳久公を祭る平松神社と、今でも興味がつきませんね。

長崎で生まれ、小学3年生のときに鹿児島に移り住んで、磯浜では水浴びをしてよく遊んだものです。鶴丸高校時代は、ボート部の練習で毎週通いました。漕ぎ手6人の「シックス」艇で、沖から琉球人松まで約1キロメートルを力漕し、ゴールすると息が上がり疲弊困憊。ボートにボケーッと寝そべって見上げる青空は限りなく広く、吸い込まれていくような錯覚を覚えましたね。

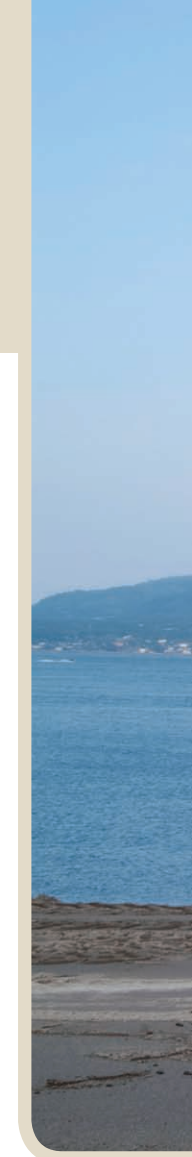
とき、思い浮かぶのは高校の校歌。
「はるばると 流れてやまぬ みんなみの青雲のはて 地ふかく 炎をのみて さくらじま けふ静かなり」
「悠久の 天を敬ひ まこともて 人を愛せむ さやけくも 負ひきしその名 いよいに栄光あれかし」
西郷隆盛(南洲翁)の「敬天愛人」の心が自然と染み通ったような気がします。

遭難しかけた苦い思い出もあります。1年生の夏、台風上陸の前日、波風は大したことはない、甘く見たのがいけませんでした。沖合で大波に遭遇してボートは転覆、全員海に飛び込む羽目に…。今考えても冷や汗ものです。

西郷さんは辛うじて息を吹き返し、夕方まで「蘇生の家」で看護されています。

西郷さんは西郷没後100年(1977年)の記念企画で、その生涯を連載したのがきっかけで、西郷研究がライフワークになりました。思えば、高校時代に遭難しかけたこと、また錦江湾上で育まれた「敬天愛人」の心など、西郷さんとは目に見えない糸で結ばれているような気がしてなりません。

私の「命」は、天から授かったものと考えています。人は誰でも、自分の得意分野で世の中に貢献しなければなりません。私の場合、西郷さんの伝記の誤りを正し、実像を後世に伝えるのが、使命ではないかと考えています。これからも西郷南洲顕彰館の館長として、西郷さんをはじめ、維新の先覚者たちの業績を後世に伝え続けていきたいと思えます。



大自然の懐に抱かれているというのでしょうか。そんなとき、思い浮かぶのは高校の校歌。



西郷隆盛蘇生の家 (吉野町花倉)

西郷研究はライフワーク

私は新聞記者時代に、西郷没後100年(1977年)の記念企画で、その生涯を連載したのがきっかけで、西郷研究がライフワークになりました。思えば、高校時代に遭難しかけたこと、また錦江湾上で育まれた「敬天愛人」の心など、西郷さんとは目に見えない糸で結ばれているような気がしてなりません。